シート　19

第　　学年　　組　　番　氏名

※　解答は、《解答欄》に書きなさい。

ポイント
・情景や人物の描写の効果について考える。
・表現の仕方について、自分の考えをまとめる。

『吾輩は猫である』（夏目漱石）に関する情報を集めていた山野さんは、インターネットで検索し、次の文章を見つけました。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章】

自宅で生徒の相談を受けている苦沙弥先生（中学の英語教師。「吾輩」を飼っている家の主。）のところへ、先生の教え子で、理学者である水島寒月君が先生を誘いに来る場面がある。

《「実はちょっと先生を誘いに来たんですがね。」
「どこへ行くんだい。また赤坂※1かい。あの方面はもうこりごりだ。せんだってはむやみに歩かせられて、足が棒のようになった。」
「今日はたいしたようぶです。久しぶりに出ませんか。」
「どこへ出るんだい。まあおあがり。」
「上野※2へ行って虎の鳴き声を聞こうと思うんです。」
「つまらんじゃないか、それよりちょっとおあがり。」》

来客に遠慮し玄関にとどまりながらも、先生を誘い出すことに熱心な寒月君と、寒月君の誘いに乗り気ではないが、寒月君をしつこく部屋へ招き入れようとし、そのくせ、玄関先へは出向こうとしない、ものぐさな苦沙弥先生の姿が、ユーモラスに描かれている。

この後、家に上がった寒月君との会話が次のように続く。

《「虎の鳴き声を聞いたってつまらないじゃないか。」
「ええ、今じゃいけません、これから方々散歩して夜十一時ごろになって、上野へ行くんです。」
「へえ。」
「すると公園内の老木は森々としてものすごいでしょう。」
「そうさな、昼間より少しはさみしいだろう。」
「それで何でもなるべく樹の茂った、昼でも人の通らない所をよって歩いていると、いつの間にか紅※3塵万丈の都会に住んでる気はなくなって、山の中へ迷い込んだような心持ちになるに相違ないです。」
「そんな心持ちになってどうするんだい。」
「そんな心持ちになって、しばらくたたずんでいるとたちまち動物園のうちで、虎が鳴くんです。」》

寒月君は、ますます①（　　）に、深夜の動物園で虎の鳴き声を聞こうと先生を誘う。この場面は小説の中の一つの場面に過ぎないが、それにしても、漱石のあふれる知性と豊かな表現力には②舌を巻く。

私は特に、この後に語られる寒月君の、次の一言に引きつけられる。

《それで虎が上野の老杉の葉をことごとくふるい落とすような勢いで鳴くでしょう。》

虎の鳴き声の荒々しさはもちろん、当時の上野には、うっそうとした木々におおわれた、夜中になればまったくの闇になる道があったことを連想させる。私の③想像力を刺激することの表現は、その前の《公園内の老木は森々として》の表現と※4相まって、上野公園が「上野の森」と呼ばれている※5ゆえんを物語る。そして、

【ノート】

「森々」とは、このようにして使われるからこそ「森々」と表すのだと妙に納得させられてしまう。
小説と対話するということは、新しい言葉を知ることであり、新しい世界を知ることでもあるのだ。

※1、2赤坂、上野…いずれも現在の東京都にある地名。
※3紅塵万丈…土けむりが空高くのぼる様子、転じて、世間のあれやこれやにまみれること。
※4相まって…互いに作用し合って。いっしょになって。
※5ゆえん…理由。

1　この【文章】を説明したものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　『吾輩は猫である』を通して、夏目漱石の表現力について批評している。
イ　『吾輩は猫である』を基にして、新しい物語を創作している。
ウ　『吾輩は猫である』のあらすじをまとめて、分かりやすく紹介している。
エ　『吾輩は猫である』を取り上げて、夏目漱石の一生について説明している。

2　【文章】の――線部①（　　）に入る言葉を、文中から**二字**で抜き出して書きなさい。

3　【文章】の――線部②「舌を巻く」と似た意味をもつ言葉として**ふさわしくない**ものを、次のアからエまでの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　感嘆する　　イ　共鳴する　　ウ　感心する　　エ　脱帽する

山野さんは、『吾輩は猫である』の中から次の場面を選び、ノートに書き写しました。

【ノート】

◎「吾輩」が家の裏にある茶園で、昼寝をしていた黒猫と出会う場面

《彼は純粋の黒猫である。わずかに午を過ぎたる太陽は、透明なる光線を彼の皮膚の上に投げかけて、きらきらする※1柔毛の間より目に見えぬ炎でも燃え出づるように思われた。彼は猫中の大王とも言うべきほどの偉大なる体格を有している。吾輩の倍はたしかにある。吾輩は※2嘆賞の念と、好奇の心に前後を忘れて彼の前に※3佇立して※4余念もなく眺めていると、静かなる④小春の風が、杉垣の上から出た※5梧桐の枝を軽く誘ってばらばらと二三枚の葉が枯れ菊の茂みに落ちた。大王はかっとその真丸の目を開いた。今でも記憶している。その目は、人間の※6珍重する※7琥珀というものよりもはるかに美しく輝いていた。彼は身動きもしない。※8双眸の奥から射ることき光を吾輩の※9矮小なる額の上に集めて、おめえは一体何だと言った。》

※1柔毛…産毛（うぶげ）。　※2嘆賞…感心してほめること。　※3佇立…立ったままじっとしていること。
※4余念もなく…一つのことに集中して。　※5梧桐…アオギリ。庭木や街路樹として植えられることが多い。
※6珍重…めずらしいものとして大切にすること。　※7琥珀…樹脂が地中で固まってできた宝石。
※8双眸…両方のひとみ。　※9矮小…小さいこと。

4　【ノート】の――選部④「小春」は、「春のように暖かい」という意味をもちます。「小春」に当たる時期として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　春から夏にかけて
イ　夏から秋にかけて
ウ　秋から冬にかけて
エ　冬から春にかけて

【ヒント】

山野さんは、【文章】の――線部③「想像力を刺激する」にヒントを得て、ノートの続きを次のようにまとめました。

【ノートの続き】

想像力を刺激される表現＝（　　A　　） →（A）は、（　　B　　）言葉だ。

5　【ノートの続き】中の（　A　）、（　B　）に入る言葉を、次の条件にしたがって書きなさい。

〈条件〉

○　（　A　）には、【ノート】の文中から、あなたが「想像力を刺激される」と感じる表現を抜き出し、「　」または《　》でくくって書くこと。※複数選んでも構わない。

○　（　B　）には、（　A　）で示した表現についてのあなたの考えを、「（A）は、～表現だ。」の形で書くこと。

○　次の例を参考にすること。

例　※ただし、【文章】中の表現を対象としている。

A…「公園内の老木は森々として」「虎が上野の老杉の葉をこと〻くふるい落とすような勢いで鳴く」

B…（（A）は、）自分が実際に上野の森に足を踏み入れたような気にさせてくれる（表現だ。）

シート　19　解答欄

第　　学年　　組　　番　氏名

1

2

3

4

5　A

B　（A）は、

表現だ。

シート　19　正答例

1　ア
2　熱心
3　イ
4　ウ
5　A（例）「その目は、人間の珍重する琥珀というものよりもはるかに美しく輝いていた。」
　B（例）（A）は、）黄色いあめのような目と黒いつやのある胴体との鮮やかなコントラストを印象づける（表現だ。）